県内 地域総合 話題のニュース

当面は改修で機能維持

庁舎建設 引き続き内部検討

つくばみらい市

庁舎のあり方について検討を進めていたつくばみらい市は、当面は分庁舎方式を維持したまま既存庁舎の改修を行っていく方針だ。新型コロナウイルス感染症対策に予算が重点的に配分されること、みらい平に市民センターがオープンしたことなどが主な理由。老朽化の進む谷和原庁舎はトイレの改修やバリアフリー対応などを計画する。

庁舎建設を見据えた上で、伊奈庁舎を解体し仮庁舎として改築。谷和原庁舎は定期的な改修を行っていくという方針が示された。

伊奈庁舎（福田195）は16年3月に建て替えを実施済み。施工は大和リース㈱。プレハブ工法で建てられ、耐用年数は約30年。規模はS造3階建て延べ床3969㎡。

谷和原庁舎（加藤237＝写真）は旧谷和原村の庁舎として1975年に竣工した。規模はRC造3階建て延べ床2675㎡。

谷和原庁舎は耐震性を満たしていたため、統合後も分庁舎としてそのまま使用されている。しかしトイレなどの衛生設備や電気設備、内装、配管などの面で老朽化が深刻で、事務スペースや議場などの空間が不足し手狭な状態にある。またエレベーターが設置されておらず、バリアフリーに課題があり利用者に不便を来している。

また、伊奈庁舎と谷和原庁舎はいずれも浸水想定区域に立地しているため災害時の拠点として不安がある。

以上のような状況から、市は谷和原庁舎の改修だけでなく建て替えや庁舎移転についても検討を開始した。2019年12月に第1回整備検討委員会を開催し、整備方針の検討を開始。庁舎のあり方については既存施設の活用や台地部への新築などさまざまな意見が出た。

しかし、市を取り巻く状況はこの1年半の間に大きく変化した。まず新型コロナウイルス感染症はいまだ収束を見通せず、限られた財源を感染症対策に用いる必要があるということ。もうひとつは8月24日にみらい平市民センターがオープンしたこと。同施設は証明書発行などの市民窓口機能を配備しており、庁舎の機能を補完する役割が期待されている。

市は8月26日の第3回検討委員会で現状を説明。委員からは一定の理解を得た。今後は可能な限りコストの縮減を検討しながら谷和原庁舎のバリアフリー化やトイレの改修工事などを進めていく。庁舎の建て替えや移転新築は今後も内部で検討は続けていくもよう。

モコドコ つくばに鉄塔建設

設計施工はミライト

㈱NTTドコモ（東京都千代田区）はつくば市に通信用鉄塔を建設する。施工は㈱ミライトドコモ事業本部（東京都江東区）が担当している。完了予定日は12月31日。

工事場所はつくば市御幸が丘33。敷地面積は153・7㎡。高さは40mで、構造はS造。

なお、設計は㈱ミライト一級建築士事務所（東京都江東区）が策定した。

2地区の下水道管延伸

上本郷など 年度内にも一部工事

阿見町

阿見町は上本郷地内と一区地内で下水道管の延伸を計画している。本年度は両地区の詳細設計業務を発注。上本郷地内の設計はトレンドデザイン㈱が、一区地内の設計は㈱東洋設計事務所がそれぞれ受託。早ければいずれかの区間で年度内に工事を発注する可能性がある。

上本郷と一区では住宅の立地が進んでいることから、年次計画で下水道の整備が進められている。本年度の詳細設計では上本郷地内が延長150m、管径1200㎜未満、管種VP管。工法については開削工法を予定。

一区地内が延長250m、管径1200㎜未満、管種VP管。開削工法での施工を見込む。

なお、延長などの工事内容は設計の中で変更となる可能性もある。

公民館を防災拠点へ整備

民間事業者と市場調査実施

常総市が現実的な方針定める

常総市は、内守谷公民館（内守谷町2743－2）での防災拠点整備を検討しており、民間事業者とのサウンディングにより現実的な方針を定める。エントリーシートの受付は9月6日から17日まで、サウンディングの実施は13日から24日まで。調査結果の公表は10月下旬を予定している。

同施設の建物規模はW造平屋建て、延べ面積273㎡（ホール119・25㎡、調理室23・19㎡、和室16・56㎡3部屋など）。築年数40年以上。旧耐震基準で建てられており、耐震診断は実施していない。市街化調整区域で、容積率は200％、建ぺい率は60％。

敷地面積は2648㎡。隣接している市有地との一体的な活用を検討する。隣地の面積は3765㎡。

公民館の老朽化を受け、新しいコミュニティづくりのための防災拠点整備を検討していく。厳しい財政状況の中、公民連携での有効活用や、資金・ノウハウなど民間活力導入等、様々な可能性を検討するため、サウンディングを実施する。

調査対象者は、活用意向のある個人（市内在住または在勤）、民間企業、NPO法人等の法人、個人事業主、各種団体等。

サウンディングの内容は、対象建物（公民館）、対象地（公民館敷地、市有地）の利活用提案・事業アイデア、事業コンセプト、対象地の市場性、事業方式、運営体制、事地域への効果、事業実施時期など。

スケジュールについては、現地調査（希望者のみ）を9月3日まで受け付け、活用方針の決定は本年度中、実施設計は2022年度中、施工は23年度中を予定している。

申込・問い合わせは生涯学習課社会教育係（TEL0297－30－8880、FAX0297－44－7646）まで。

セキスイ等が落札

戸建49戸と共同住宅2戸

茨城県／桜の郷1.4万㎡用地

県宅地整備販売課による桜の郷地区住宅事業者向け用地分譲の一般競争入札が27日に執行され、茨城セキスイハイム㈱（水戸市）などを構成員とする連合体が落札した。事業計画は戸建住宅の分譲49戸、共同住宅の分譲2戸としており、戸建住宅のうち50％以上にネット・ゼロ・エネルギーハウス（ZEH）を導入する。

分譲するのは茨城町桜の郷1200－2（⑥－2画地）。面積は1万4563・06㎡で、桜の郷中央公園の向かい、カワチ薬品桜の郷店の隣接地。

近隣には国立病院機構水戸医療センターなどが立地。用途地域は第二種住居地域（建ぺい率60％／容積率200％）。

落札したのは、やさしさのまち「桜の郷」住宅事業者向け土地分譲事業共同連合体。構成員は茨城セキスイハイム㈱、㈱アゲル（つくば市）、㈱朝日コーポレーション（土浦市）。

落札価格は予定価格（最低売却価格）と同額の1億4900万円。入札参加は1者のみだった。

県土木部・幹部 きょうの動向

（○＝在庁　●＝不在）

	午前	午後
［本　課］		
部長	○	○
次長（事）	○	○
次長（技）	○	○
都市局長	○	○
港湾振興監	○	○
企画監	○	○
監理課長	○	○
用地課長	○	○
検査指導課長	○	○
道路建設課長	○	○
道路維持課長	○	○
河川課長	○	○
港湾課長	○	○
営繕課長	○	○
都市計画課長	○	○
都市整備課長	○	○
下水道課長	○	○
建築指導課長	○	○
住宅課長	○	○
［出　先］		
水戸土木所長	●	○
常陸大宮土木所長	○	○
大子工務所長	○	○
潮来土木所長	○	○
土浦土木所長	●	●
筑西土木所長	●	●
常陸太田工事所長	○	○
高萩工事所長	○	○
鉾田工事所長	○	○
竜ケ崎工事所長	○	○
常総工事所長	○	●
境工事所長	○	○

土浦バイパスは箱型函渠など

事業概要 災害に強い県土づくり

県土浦土木

県土浦土木事務所は災害に強い県土づくりを目指して広域的な幹線道路網や河川、都市公園などの整備を進めている。国道125号つくばバイパスは箱型函渠工事や道路改良舗装工事などに取り組んでいる。新都市中央通り線は道路改良工事や地盤改良工事を実施。霞ヶ浦総合公園や洞峰公園では長寿命化計画に基づき施設の更新を進めていく。

つくばバイパス 用買と交差点の改良舗装

国道125号つくばバイパス（つくば市田中～寺具）は県南・県西地域を東西に連絡する広域幹線道路。常磐自動車道土浦北ICや筑波山地域へのアクセス機能の強化と、つくば市北部における交通渋滞緩和等を図るため、バイパス整備を推進している。

国道354号土浦バイパス（土浦市若松町～手野町）は、鹿行・県南・県西地域を東西に連絡する広域幹線道路。鹿行地域方面から常磐自動車道土浦北ICへのアクセス機能の強化と土浦市内の渋滞緩和を図るため、4車線化整備を推進している。

一般県道桜川土浦潮来自転車道線（つくば霞ヶ浦りんりんロード）は、旧つくばりんりんロードと旧霞ケ浦自転車道を一体とした県道。交流人口拡大による地域活性化及び地域経済の発展を図るため、誰もがサイクリングを楽しむことができる、日本一のサイクリング環境構築を目指し、自転車道整備を推進している。

都市計画道路新都市中央通り線（つくば市下萱丸～谷田部）はつくば市中心部を起点につくばエクスプレス沿線の各開発地区を結ぶ。新たなまちづくりの促進や県南地域の連携強化を図るため、バイパス整備を推進している。

一級河川恋瀬川は石岡市・かすみがうら市など流域の浸水被害解消のため、1940年度から河川改修を推進している。また、中上流部で2014、15年の台風による大規模な浸水被害が発生したことから16年4月に国補事業区間を6・4㎞延伸。中上流部の浸水被害の解消に向けた整備を推進している。

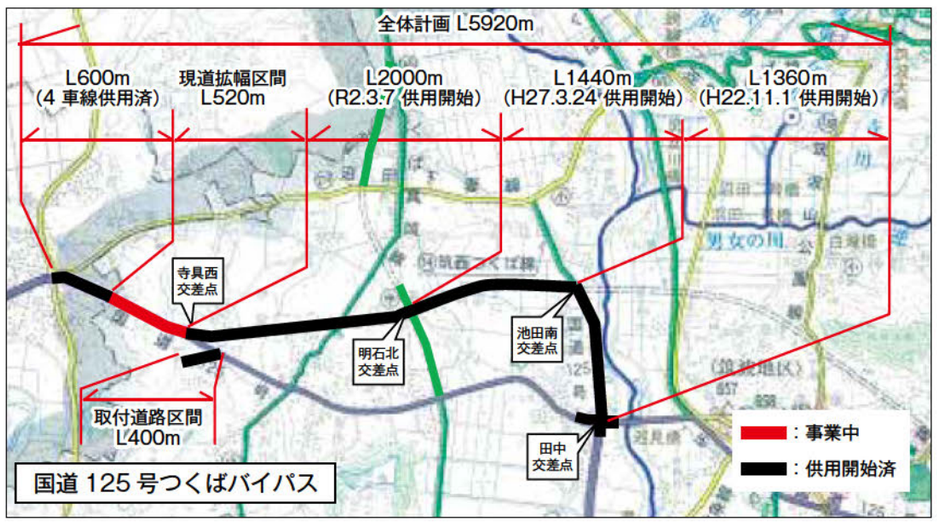
霞ヶ浦総合公園・洞峰公園は開園から30年以上が経過している県営都市公園。公園内の各施設・設備が老朽化していることから、利用者が安全・安心に利用できる公園とするため、長寿命化計画に基づき施設の更新を推進していく。

土地区画整理事業について見ると「伊奈・谷和原丘陵部」は、つくばエクスプレス沿線地域での重要な拠点整備地区の一つとして位置づけられており、つくばみらい市の顔となる新しい魅力ある街づくりを目指すため、県有地の処分推進及び維持管理を実施。健全な市街地の形成を図る。

「島名・福田坪」及び「上河原崎・中西」は、つくばエクスプレス整備に併せて一体的なまちづくりを進めるため、都市基盤整備と良好な住宅・宅地の供給を行う。それとともに、つくばエクスプレスの整備による交通事情の改善と都市機能集積の促進を図り、新駅を中心とした新たな拠点形成を図る。

（仮称）上曽トンネル整備事業は、上曽峠区間が幅員狭小で線形不良かつ急峻なため、走行安定性が高く周辺環境への影響が少ないトンネル（約3・5㎞）を含めたバイパス整備を行うもの。

車両通行の安全性が図られるとともに、地域間の交流を促進し、沿線域の振興に寄与する。



河川や都市公園も推進

主な事業概要

事業概要は次のとおり

（■事業名＝①全体計画②事業年度③進捗率（20年度末）④本年度事業概要）。

■国道125号つくばバイパス（つくば市田中～寺具）＝①L5920m、W25／14m、C112億円②1990年度～③93％④用地買収、交差点改良舗装工事

■国道354号土浦バイパス（土浦市若松町～手野町）＝①L5840m、W25／13m、C162億円②1991年度～③95％④箱型函渠工事、道路改良舗装工事、道路改良工事

■一般県道桜川土浦潮来自転車道線（つくば霞ヶ浦りんりんロード）＝①L44㎞、W3～4m、C16億円（土浦市6㎞、つくば市24㎞、かすみがうら市14㎞）②2000年度～③48％④自転車道整備工事、用地買収

■都市計画道路新都市中央通り線（つくば市下萱丸～谷田部）＝①L594m、W30／13m、C18億円②2017年度～③83％④道路改良工事、地盤改良工事

■一級河川恋瀬川＝①L16・8㎞（確率年1／10）、C129億円②1940年度～③62％④橋梁撤去、橋梁下部工、用地補償、河道掘削工事

■霞ヶ浦総合公園＝①県管理区域A10・3ha②2014年度～④空調施設改修工事

■洞峰公園＝①県管理区域A20ha②2014年度～④井水ろ過装置更新工事、照明灯改修工事

■土地区画整理事業（伊奈・谷和原丘陵部）＝①A274・9ha、C691億円②1993年度～2020年度（清算期間を含む）③100％④県有地管理

■土地区画整理事業（島名・福田坪）＝①A242・9ha、C481億円②2000年度～29年度（清算期間5年を含む）③81％④造成及び区画道路工事、物件移転補償等

■土地区画整理事業（上河原崎・中西）＝①A168・2ha、C369億円②2000年度～29年度（清算期間5年を含む）③69％④造成及び区画道路工事、物件移転補償等

■（仮称）上曽トンネル整備事業（受託事業）①L5・58㎞（うちトンネルL3・54㎞）W8／6・5m（トンネル）W10／6・5m（あかり部）C123・7億円（うち石岡市分71・2億円）②事業年度2018年度～③36％（石岡市分）④トンネル本体工事（債務分）、道路改良工事、道路環境調査

県土浦土木事務所 所長 大石（おいし） 直人（なおと）氏

土浦土木事務所では、広域的な幹線道路網の整備や、災害から県民の生命財産を守る河川整備、県民の憩いの場である都市公園の長寿命化対策、安全で快適な交通を確保するための道路維持修繕など各種施策に取り組んでおります。

道路については、鹿行・県南・県西の各地域を連絡する国道125号つくばバイパス、国道354号土浦バイパスなどの広域幹線道路の整備や、橋梁の耐震化、老朽化した舗装の修繕を推進してまいります。

河川については、桜川、恋瀬川各流域の浸水被害を解消するための中・上流部における河道掘削や、つくばエクスプレス沿線開発に対応した西谷田川、中通川の河川改修を推進しております。

これら事業の推進にあたりましては、予算の効率的かつ効果的な執行に努めながら、着実に取り組んでまいります。